

る。

IGCの巡検は総じてキャンセルが多く、後の編成に苦勞が伴い、また実際に実施されるものでも、その準備・案内に多くの苦勞が伴う。パリにおけるIGCの巡検にも幾つかの反省点があるとのことである。1つのコースを廃止した場合、他日への変更はあまり好まれず、同日の他コースへのふり替えか返金が多かった。サード・サーキュラーから会期までの期間が短かすぎた。セカンドからサード・サーキュラーでの変更は少ない方がよい等である。全体的に第26回IGCの期間中は天候が悪かったことも巡検に影響しているようである。

出版について

会議参加者に配布された出版物はプログラムとプロシーディング、アブストラクトの他にコロキウム7テ

ーマ分が7冊のプロシーディングスとして渡された。これらに全てが盛られているわけではなく、一部は学術雑誌の特集号等でも印刷されている。

巡検ガイドブックはヨーロッパの17コース、フランスの6コース、テーマ別の14コース分が印刷された。

おわりに

パリにおける第26回IGCは成功した例であるといわれている。その一つに、長期にわたり良く準備したこともあげられる。またフランス人が組織的に仕事ができるという国民性が良い方向に働いていたからかもしれない。パリはヨーロッパの中心に位置し登録料が高額でもヨーロッパの人々にとっては旅費が安いいため、それほど大きな負担とならなかったことが多くの参加者が得られた一因とも考えられる。

~~~~~ 地学と切手 ~~~~~

ニュージーランドのエグモント火山

P. Q.



ニュージーランド北島の南西岸に位置する主に安山岩からなる成層火山で国立公園となっている。火山本体はほとんど対称的で、海拔2,518mである。頂上には西側に開いた火口があり、半ば破壊された溶岩円頂丘によって埋められている。裾野は緩く、火山碎屑物によって構成されている。

エグモント火山は¹⁴C年代測定によれば45,000年以前から活動したとされ、K-Ar年代測定によれば溶岩から21,000年の値が得られている。頂上北方には標高1,399mのポウアカイ・レンジがあり、切手では左手の方のこぶになっているが、この年代は22万と25万年前である。

エグモント火山の最近の活動については年輪年代学と放射炭素による年代により、よく追求されている。

550年前の活動は小規模の火砕物の活動であり、頂上

火口が西に開いたのはこの時の活動と考えられている。

400-450年前には最も激しい活動が起った。主に西方に向かって活動し、マオリ族の炉を火山灰が覆い、火口から16kmの所でも植生が燃え上った。活動は中央火口からの directed explosion だった。

300年前の活動は破壊された植生の年輪から推定される。西方への directed explosion があった。軽石は東へも降下した。この活動の火山灰に覆われたマオリ族の炉からの材木は360±60, 400±60年の¹⁴C年代を示している。火山灰はこれより新しくなる。

200年前の噴火は火山灰を多く南東側に降らせた。

切手は3pは1935年の23cは1971年のいずれも普通切手である。



写真5 IGC 本会議もあと1日、野外バーベキューパーティー

で妙になつかしさを感ぜさせてくれた。三葉虫や二枚貝などの化石もあちこちで産するそうで、古生物屋の近藤氏はまっ先に露頭に突進していた。収穫のほどはいかが

でしたか。

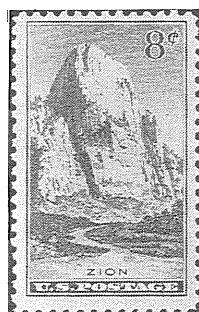
5. その他もろもろ

ワシントン IGC は私にとって初めての国際学会であり、楽しいこと苦しいことさまざまな体験をした。キャンセル多発のシンポジウムセッション、GSJ 展示ブース・日本 IGC ブースの店番をしたこと、ワシントン市内の情景。I 氏に触発されて参加しまくった5つの1日巡検・見学、GSJ 諸氏 in Washington (これはすごそうだ、写真5)、食事になじめず苦しんだこと、日本 IGC での再会を約した友人たち、などなど。これらについては誰か適任者が書くだろうと思ひ一切省くことにしたのだが、寄せ集め特集号の悲しさで面白い話もれ落ちていないとも限らぬ。そのときは、そうや、ようけ買ってきた免税酒の肴にでもしよか。

~~~~~ 地学と切手 ~~~~~

アメリカ・ザイオン国立公園の切手

P. Q.



ザイオン国立公園はアメリカ西部と言うよりユタ州の南西部にある。丁度フーパー・ダム の北北東である。この公園は深く狭い隙間と直立した壁を有する谷と、時間によって次々と色を変えて行く尖頭によって知られる。それらはウォッチマン、イースト・テンブル、グレート・ホワイト・スローン、エンゼル・ランディング、カセドラル・マウンティン等と命名されている。ザイオン峡谷には先史時代にプエブロ族が住んでいた。1776年スペイン人の1隊がすぐ傍まで来て初めて白人として素晴らしい景色をかきました。50年後にやはり白人の調査隊がソルトトレイクからこの峡谷を抜けてコロラド河へ下

って行った。彼等はこの景色をガイドに提供しただけだった。1847年からこの峡谷にモルモン教徒の定住が始った。ザイオンと命名したのは彼等である。

1909年に国立記念物となり、1919年に現在の名称となり、1956年に現在の面積147.035エーカーとなった。

ザイオン国立公園を作る岩石は二畳紀、三畳紀、ジュラ紀、白亜紀の堆積岩である。火山岩は新期のもので溶岩や岩脈が局所的にあるに過ぎない。堆積岩は海成と非海成のものが、非海成の占める割合が大きい。非海成堆積岩は斜層理の顕著な砂岩からなり砂丘堆積物とも考えられている部分がある。地層は大よそ水平であり、岩の塔の大部分は下部～中部(?)ジュラ系のナバホ砂岩であり、これは白色を呈する。水平な地層、硬軟の岩層の積み重なり、急激な降雨とそれによる侵蝕がザイオン国立公園の見事な景色を生み出した。その他の興味ある地形としては、第四紀の谷埋め堆積物、崖の下の洞穴、岩のアーチ、大規模の地辻、移動している砂丘などがある。

切手は1934年発行国立公園記念10種のうち、画かれているグレート・ホワイト・スローンはナバホ砂岩からなる岩塔で、斜層理が顕著であり、上半部は白色である。高さはバージ川の川底から約2,400フィートである。